

進化が深化を促す。



GO TO 100th ANNIVERSARY
2023
そして、その先へ。

2017
色の科学芸術センター、国内初の「色」の常設展示場「col.labギャラリー(カラボギャラリー)」を設立。子どもから大人まで「色」の科学的芸術的な面白さや奥深さを体験することができる企画展をスタート。

2018
教育・文化の普及を目的として、日本初の体系的なアニメーション学習・体験施設である杉並アニメーションミュージアムのネーミングライツ契約を東京都杉並区と締結。「東京工芸大学杉並アニメーションミュージアム」発足。

2019
分野を横断した教育の実現を目指し工学部5学科を1学科5コースに再編成。メディア芸術で世界をリードする街、東京の都心部に位置する中野キャンパスに芸術学部全7学科全学生の就学地を統一。

想像が創造を生む。



2003
日本の4年制大学で初めてのアニメーション学科を増設。風工学に関する教育研究活動の拠点である風工学研究センターで進められていたプロジェクト「都市・建築物へのwind・イフェクト」が文部科学省21世紀COEプログラムに採択。

1994
メディア芸術を基盤とする芸術学部を開設し、工学部との総合大学として新たにスタート。

戦災により校舎(現・東京都渋谷区)焼失。小西六写真工業の淀橋工場内青年学校を借用し講義再開。

日本の写真技術の振興に寄与する人材の育成を目的として、小西本店(現在のコニカミノルタ株式会社)が小西写真専門学校を創立(現・東京都渋谷区)。

1945

1923

1947
8代・杉浦六右衛門(小西六写真工業株式会社社長)から校地として、総合研究所跡地(中野区本町)の土地を譲り受ける。中野キャンパスがスタート。

1950
新学制により、財団法人東京写真短期大学(写真技術科、写真工業科)を発足。

1966
4年制大学として東京写真大学工学部を神奈川県厚木市に開設。写真工学科と印刷工学科の2学科でスタート。

1975
国内外の優れた写真作品を展示・収集・研究する、写真教育の“創造的現場”として、写大ギャラリーを開設。

1977
大学名を東京工芸大学に改称し、学内改革に取り組む。

1978
大学院を設置し、教育研究体制を拡充。

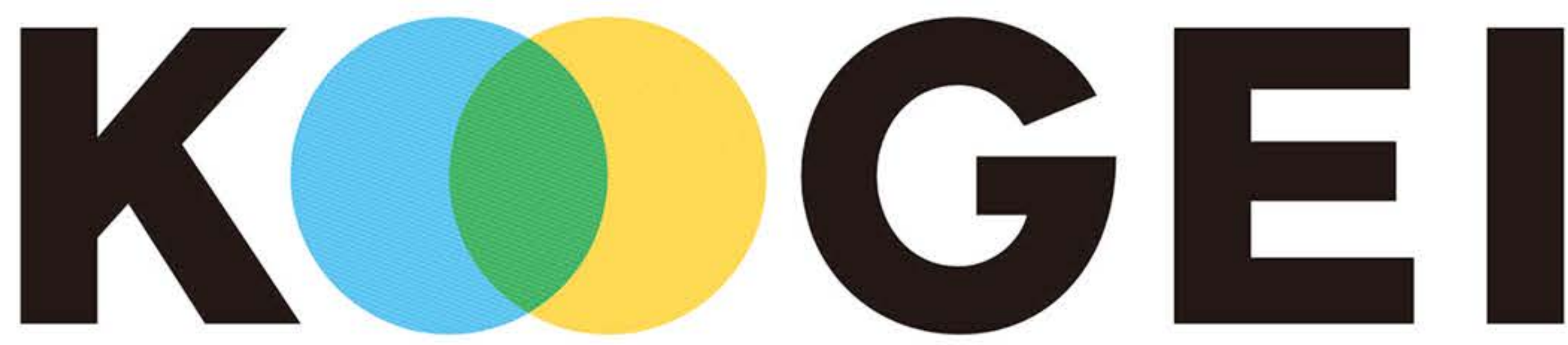
1982
東京工芸大学女子短期大学部を開設。国内で初めて秘書科を設置。

教育の理念100年を経ても変わらず

アートとテクノロジーの融合を目指した先駆的な教育を行い、これまで多くの人材を育成してきた。その前身は、約1世紀前に創設された*小西写真専門学校。当時、最先端の“工学技術”“芸術表現”だった“写真”を教育の根幹に据え、アートとテクノロジーの融合に無限の可能性を追い求めつつ、現在は工学部と芸術学部を併せ持つユニークな総合大学へと発展。2023年には100周年を迎える。この先もメディア芸術とテクノロジーの分野で世界的有為な人材の育成をめざす教育理念に変わりはない。アートとテクノロジーは、どちらも人を幸せにそして豊かにする。時には世界を変えることだってできる。だから東京工芸大学の学びは、どこまでも面白い。

*小西本店(現在のコニカミノルタ株式会社)代表の7代・杉浦六右衛門が創立した旧制専門学校

原点は、写真教育 2023年、創立100周年を迎えます
— 一貫してメディア芸術とテクノロジー分野に世界的有為な人材の育成 —



東京工芸大学 TOKYO POLYTECHNIC UNIVERSITY

工学部
工学科
[総合工学系] 機械コース/電気電子コース/
情報コース/化学・材料コース
[建築学系] 建築コース

芸術学部
写真学科/映像学科/デザイン学科/
インタラクティブメディア学科/
アニメーション学科/ゲーム学科/マンガ学科

大学院
[工学研究科]メディア工学専攻/工業化学専攻/
建築学・風工学専攻/電子情報工学専攻
[芸術学研究科]メディアアート専攻
博士前期課程(修士課程)・博士後期課程(博士課程)

[厚木キャンパス] 神奈川県厚木市飯山1583
[中野キャンパス] 東京都中野区本町2-9-5

www.t-kougei.ac.jp/
東京工芸大学 検索